

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

https://kosaiji.net/

法座のご案内

六月三日(月)・四日(火)

午前九時半・午後二時より

永代祠堂経法要

※ 昼食にお齋を用意しております



今号の法語



大丈夫だよ

生きていけるよ

祖父江 文宏

今号の内容

- ・ 広濟寺探検隊！特別編
- ・ 写真で見る広濟寺の昔々
- ・ 住職コラム
- ・ 千夏のきときと日記



新しい年号となり、いよいよ新たな時代が幕開けしました。明るい未来を願ってはいるのですが、反面、様々な不安を抱えながら生きている私たちの現実の姿があります。

「大丈夫だよ、生きていけるよ」は、児童養護施設で長年園長を勤められた祖父江文宏さんの言葉です。虐待を受ける子どもたちを、身体を張って保護してこられた祖父江さん。その言葉は、きつと子供たちに大きな力となり、かけがえのない人生を生き抜いていく原動力となったのではないのでしょうか。

私の姿のありのままを、「大丈夫だよ」と受け入れ包んでくれる阿弥陀さまがおられます。限りない不安がある現実の中で、不安で押しつぶされそうな私の姿を常に見守り常に励まし、限りのないあなたかな心で私を抱きしめておられる仏さまです。

令和の新時代が輝きに満ちた時代になるように、あなたかな心を胸に、かけがえのない人生を共に生き抜いていきましょう。

★第五〇号記念★

廣濟寺探検隊！

写真で見える廣濟寺の昔々々



今回は第五〇号記念というそのわずかの中から、当時のお寺の様子を、はるか時空をこえての廣濟寺探検隊です！時代は一気に昭和初期へ。この時代からお寺には写真が残っているのですが、風景の写真はごくわずか（ほとんどが人物写真）。



昭和20年代後半の廣濟寺

まずは左上の写真。廣濟寺を正面から写しています。お気づきになりますか？いろいろ現在と違っているところがありますね。当時の正面口は門のみ。車社会になる前の時代です。路面も舗装されていないので現在よりも低いですね。そして右下は本堂内正面の写真です。廣濟寺前々住職（福田尚道）の後ろに柵（外陣）



を仕切る「結界」があります。現在はありませんが、今でも柱には結界をはめ込んでいたであろうホゾ穴が残っています。

またお参りの際に見てみてください。さい。

さて本堂についてですが、昭和二十五年のジェーン台風で屋根が大きく損壊。修理後は現在の瓦葺きになったのですが、それ以前は石置屋根（板葺きの屋根に石を置いて、板が風に飛ばされないようにした屋根）でした。残念ながら当時の写真は残っていません。

また戦時中には、東京から子どもたちが集団疎開に來ていました。廣濟寺には七〇名の学童が滞在しました。戦時

中の物資不足の影響でしようか、この時の様子を写す写真も残念ながら残っていません。ただその名残りは今でもあり、お寺の柱などには当時疎開学童用に打ち込んだ釘が残っています。

左の写真は、戦後しばらくしてから、お参りに行く際の写真でしょうか。菅笠をかぶって自転車をひく廣濟寺前々住職です。自動車は当たり前ではない時代。今は本当に便利な時代ですね。

現在ではもう知る人も少ないであろう写真もでてきました。次頁左上の写真ですが、





戦前の田植えの写真です。この場所どこだと思われませんか？実はここはお寺の門前。現在駐車場になっている場所です。写真左側に、今と同じ辺りにお地藏さまがおられるのがわかります。左下のもう一枚は、牛を使って田起こしをしている際の写真でしょうか。現在は農業も機械化され、このような田んぼ作業を見ることもなくなりましたし、作業する際の服装も大

きく変わっていますよね。ところでこの田んぼは何の為にあつたのでしょうか？前坊守の話によれば、お正月にお寺にお供えするお餅の為のもち米を、この田んぼで作ってもらっていたとのこと。当時は、生け垣の手入れはこの村の門徒方、木の伐採はこの村の門徒方、雪よかしはこの村の門方、というように各地域ごとに担当を決めてお寺を維持していたそうです。お

寺に実際に入りする多くの方々がおられたからこそ、当時の方々にとつてお寺が身近な存在であったのかもしれない。最後(右下)の

写真は広濟寺の梵鐘再興法要のものです。前々号(第四八号)でもふれましたが、旧梵鐘は戦時中の「金属類回収令」によって失われました。戦後新たな梵鐘をお迎えした時の写真です。悲惨な戦争が終わり新たな時代へ、真新しい梵鐘につけて、当時の方々は何

住職コラム

早やお寺の二本の銀杏も若葉に覆われ、新緑の樹木に変わりました。

この時期、京都・西本願寺では毎年親鸞聖人の降誕会法要が勤められており、当広濟寺では平成四年より同十四年まで毎年バス一台での団体参拝をさせていただき、その折におかみそり受式もありました。すでに当



以上、探検隊特別編でした！

時の参加者には後期高齢に入ってきましたが、百歳を越えてまだまだ達者な方もおられます。現在、交通機関も便利になりましたが、逆にいつでも行けるということも本山参りはまだまだという方もおられます。育まれ、励まされていることの発見と、そのお礼のお参りです。足腰の達者な時に、今お参りしていただきたいですね。ありがとうございます。なまんだぶ。

合掌

千夏ちなつのきときと日記

ついに新しい年号「令和」がスタートしましたね。今年は二回年越しをしたようなお得な気分になったのは、私だけではないと思います。除夜の鐘もなく、一人ゆつくりとテレビを見ながら令和を迎えました。一人は寂しかったので、今年も年越しもまた除夜の鐘を撞きに来てくださいね♪(若院は何をしていたのかはまた個別に聞いてください)

さて、この平成〜令和にか



前住職と前坊守(昭和18年)

けて、新しい挑戦をした方がこの広濟寺の家族の中にいます。誰だと思いますか？正解は、大正生まれの前坊守ぼうちもりです！平成三十一年四月に左目、令和元年五月に右目の白内障手術をし、今はよく見えるようになったと喜んでいます。目の手術ですと不安や怖さもあり、なかなか手術をする決めるまでにはかなり時間がかかりました。しかし、病院の先生や、家族の勧めや励ましもあり、手術をする決意をして実行する姿を身近で見せても

らいました。

何かを始めるのに、(締切があるのを除いて)遅いということはないように思います。この機会に私も挑戦しようと思えます。内容はお楽しみに！



お知らせ

二〇一九年

永代祠堂経法要

六月三日(月)・四日(火)

午前九時半より

午後二時より

御講師

五位組 教願寺

岡西 法英 師

広濟寺仏教婦人会

毎月第四土曜日

午後七時半より

編集後記

広濟寺寺報もおかげさまでついに第五〇号を迎えました。第一号から九十年。いろんなことがありました。ですがこれも広濟寺の歴史の中ではほんの一部。長い長い歴史の中では、喜びあり苦しみあり、本当に様々なことがあったに違いありません。

今回は昔の写真から特集を組みました。今では当時を知る人も少なくなりました。いつかは写真だけが過去の歴史を物語る資料になるでしょう。

そこで皆さんにお願いがあります。お寺や仏事にまつわる過去の写真などお持ちではないでしょうか。是非一度探してみただければと思います。現在の技術で白黒をカラー化(完全ではないですが)することもできますよ。ご協力宜しくお願いいたします。